

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立海津明誠高等学校 学校番号 30

I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通して、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を進展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いをもった生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>○外部評価アンケート（令和3年度実施のもの）実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒および保護者にメールを送付、WEBで回答。 ・保護者、学校運営協議会委員では167人、生徒は190人が回答。 ・実施方法の変更により、前年度比での評価が低下。 <p>○アンケートの結果</p> <p>【生徒】「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」の項目と「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の項目で73.2%の生徒が当てはまると回答した。他のアンケート項目と比較して、悪くない評価であった。</p> <p>【保護者】「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。」の項目で58.2%、「学校では個々の生徒の相談に丁寧に対応している。」の項目で57.8%が当てはまるとの回答であった。「学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の項目で49.4%と低い数字となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モラルやマナー、社会規範を身につけさせる指導についてはさらなる向上を目指して指導に力を入れていきたい。 ・いじめ防止等の取り組みが生徒にはある程度評価されているが、保護者にはそれほど評価されていないため、保護者へのより丁寧な説明と対応が必要であると考えている。
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇交通事故・問題行動等の発生時には、危機管理意識を高く持ち、迅速な対応に努める。</p> <p>◇自他の生命の安全と人格を尊重する指導に努める。</p> <p>◇規範意識の醸成と道徳的実践力の育成に努める。(端正な身だしなみ、遅刻防止、非行防止、交通ルールの遵守、情報モラルの向上、人間関係の形成とコミュニケーション能力の育成、積極的な社会参加)</p> <p>◇担任・学年主任・生徒指導主事・教育相談担当など職員相互の連携を強化し、日常的な教育相談活動を通して、いじめや不登校の早期</p>

	発見・早期指導に努める。 ◇保護者との意志疎通を図り理解と協力が得られるよう努める。また生徒の指導については説明責任が果たせるように努める。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会、人権教育委員会、特別支援教育推進委員会、いじめ防止等対策検討会議	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生命の尊重、不審者犯罪被害防止指導（命を大切にす指導、SOSの出し方教育、職員研修、海津警察署長講話） (2) 規範意識の醸成と道徳的実践力の育成（各教科指導や活動、総合的な探求の時間を含めた学校教育全体を通した身だしなみ指導や挨拶、礼儀や生活規律・授業規律の確立、ひびきあいの日、遅刻防止強化月間等） (3) 教育相談活動の充実と早期の相談指導対応（教員間の情報共有やスクールカウンセラーや家庭、関係諸機関との連携） (4) 交通事故防止と地域社会への貢献（MSリーダーズによる早朝交通安全運動や関係諸機関との連携）	(1) 年2回の自己評価、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの実施 (2) 遅刻数の減少(数値目標の設定と検証) (3) 不登校生徒・進路変更生徒数の減少 (4) 交通事故発生件数の減少	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・全校生徒を対象に命を大切にす指導、SOSの出し方教育講話、相談窓口の呼びかけ、海津警察署長講話を実施した。 ・ひびきあいの日DVD鑑賞、毎月10日に情報モラルデー、月初に遅刻0週間を実施した。 ・月に2回のペースで、生徒及び保護者を対象にスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施した。また、スクール相談員の活用による教育相談体制の確立を行った。 ・MSリーダーズが学校内外において、規範意識や交通マナーの向上を目的とした交通安全運動等の活動を実施した。	①講話、講演等を通して、自他の生命や安全を守る意識が醸成されたか。 ②規範意識の醸成を図ることができたか。 ③問題や悩みを理解し、生徒に寄り添った、解決への指導助言を行うことができたか。 ④MSリーダーズや生徒会活動などを通して生徒の道徳的実践力を向上させたか。	A B C D A B C D A B C D A B C D
12 成果・課題	○海津警察署長講話やSOSの出し方教育講話を行い、身近にある犯罪について考え、また生徒にとって自他の生命を大切にすための貴重な学びができた。 ○いじめ認知件数16件（12月7日現在）は昨年度の半数以下で、いじめ撲滅に近づいてきている。いじめを許さない態度と取り組みを一層強化してく。 ▲遅刻者数762名（11月30日現在）、欠課の多い生徒や怠学傾向の生徒がおり、今後も教育相談的アプローチで、生徒に寄り添って指導していく。	
13 来年度に向けての改善方策案	・遅刻数は昨年度と比べ、約40%減少したが目標は達成していない。しかし遅刻0週間の成果が多少あったと考えられるので、より啓発に力を入れて来年度も取り組んでいきたい。 ・いじめ撲滅に向けて、積極的に生徒と関わり、いじめを見逃さない、許さない態度と取り組みを一層強化してく。 ・来年度も、自他の生命の尊重や人権尊重の姿勢を示し、全校集会での一斉指導、生徒会からの啓発活動、HR等で、情報モラルに関する指導とともに継続していく。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月18日

【意見・要望・評価等】

- ・無事に卒業できるように生徒の指導をしている。年度途中で進路変更するにしても、生徒と保護者が共に納得できるように相談にのりながら指導してほしい。
- ・3年生において年度の後半に遅刻が増えるのは、進路決定後の気の緩みからではないかと思われる。それを踏まえた指導ができるとうよい。
- ・制服の自由化について、生徒、保護者、地域の住民、職員等の考えを聴取しながら議論を深め、他校の状況も見極めつつ進めていくとうよい。